

派遣から専任に転職した中国の高校日本語教師のキャリア形成に 関する事例研究

(要旨)

陳妙清

近年、中国の大学入試において外国語科目として日本語を選択する高校生が増加しており、それに伴い高校日本語教師の需要も高まりつつある。しかし、日本語学習者の急増に教育現場が十分対応できず、専任教師が不足している状況にある。そのため、学校招聘や会社派遣など、多様な雇用形態で日本語教師が採用されるようになる。教師はキャリアを積んでいく中で、勤務地や所属機関、雇用形態を変えることも珍しくなく、キャリアは複雑化傾向にある。しかし、先行研究の多くは会社派遣教師や専任教師といった単一の集団に焦点を当てたものであり、転職経験を有する日本語教師のキャリア形成に着目した研究は不足しているといえる。そこで、本研究では、派遣教師から専任教師へと転職した経験のある中国高校日本語教師 1 名を対象とし、複線経路等至性アプローチを用いて①日本語教師としてのキャリア形成のプロセス、②キャリアの選択に影響する要因を明らかにした。その結果、中国社会における日本語教育を取り巻く環境が変化する中で、日本語教師が自らの職業的立ち位置をどのように再構築し、いかにして成長していくのかという過程を可視化することができた。

キーワード：キャリア形成、複線経路等至性アプローチ (TEA)、日本語教師、転職